

地域への関心や意識を高める

12 文化財アクション・リサーチ：高校生の思考分析

栃木高校生小論文コンクールは、2013年、2014年の二度にわたって開催され、それぞれ応募総数が102点、319点を数えた。これらの作品の中には突出した案も含まれるが、群として捉えた場合、一般の高校生が蔵の街の近未来をどのように捉えているか、彼らの思考様式の一部を捉えることができる。

ここでは応募作品に現れるキーワードを抽出する方法と、一般的なアンケート形式による方法を紹介したい。

前者は、第一回コンクールの応募作102件からキーワードを3つまで抽出し、応募者全体の方向性を把握した。小論文のテーマが2050年の栃木の未来像を描くことであるため、昨今の都市未来像のバズワードであるスマートコミュニティを補助線とみなし、高校生の思考の特質を抽出することにつとめた。

スマートコミュニティは様々な省庁が用いる近未来の都市像であるが²⁾、それぞれニュアンスや方法が異なる。このため、図1に示したように各省ごとにマトリクスを作成し、高校生のキーワードを配置することで、高校生の力点がどこに置かれ、どこが盲点なのかを知ることができる。

総務省のスマートコミュニティの議論はブロードバンドの活用による情報伝達に集約される。例えば、NTT 西日本・熊本県・熊本市が推進しているスマートタウン熊本では、地理情報(GIS)を中心に据え、各種 ICT 機器の活用や、自治体が保有する情報、SNS などの住民発のデータをクラウド上に収集する。これにビッグデータを組み合わせて、「見える化」することで、「タウン型クラウド」の街づくりを目指している³⁾。

こうした発想を栃木の街づくりに応用して、「アナログ⇄デジタル」を横軸に、「地域外への情報発信⇄地域内の情報共有」を縦軸としたマトリクスを作ると、各応募案のキーワードは下図のように配置できる。ここから読み取れるのは、映画・TV・インターネットを活用した観光 PR といった、地域外への情報発信を提案していることがわかる。それに対して、伝建地区内の情報共有として「挨拶の重要性」、「おかえりの声がけ」、「子供には非 SNS なコミュニケーションが重要」といった基本的かつ至極全うな意見も散見された。

また高校生自身の主体的な取り組み提案として「防災講座による啓発」、「地域学による伝承継承」、「高校生による地域清掃」などが挙げられるが、主催者側が期待していた高校生自身によるデジタルな活動提案(高校放送部による地域情報の net 配信)やインターネットを介した地域内情報共有の提案が見受けられなかった。

次いで後者は、第二回コンクールの応募作 319 案とは別に、栃木翔南高校二年生に対して行った簡易アンケートの集計である。このアンケートを行ったきっかけは、第一回小論文コンクールの反省点として、普通高校の

生徒のみならず、教員、担任などの教育関係者に興味関心を持ってもらえなかった点が挙げられる。そこで、第二回コンクールでは多くの普通高校で二年時

表1 応募作品キーワード抽出表の一部

No	キーワード1	キーワード2	キーワード3
1	防災講座		
2	空き屋対策	イベント	
3	子育て支援	リノベーション	
4	空き屋対策	ヤマサ博物館	
5	空き屋対策	シャッター商店街	
6	巴波川		
7	空き屋対策	誰もが楽しめる場所	祭
8	PR	ショッピングセンター再開発	
9	バリアフリー	新しいボランティア	
10	写真館活動	コミュニティの存続と写真	
11	ミツツ通りリノベーション	高校合同文化祭	
12	震災時の避難救助	地域学	
13	伊豆沼の緑樹		

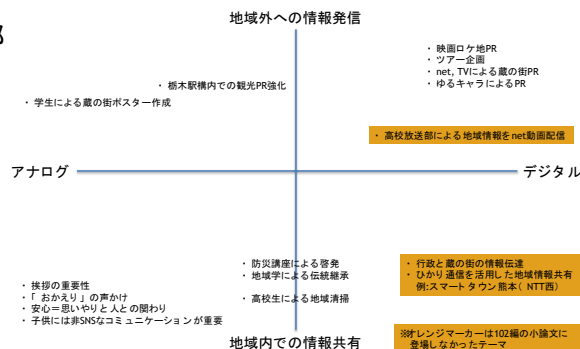


図1 総務省的なスマートコミュニティから見たキーワード配置

に進路指導(キャリアデザイン)が行われている点に着眼し、これを小論文のテーマを密接に関連づけるよう心がけた。この案を持参し、栃木翔南高校の進路指導担当教員と面談したところ、「企画の趣旨は理解するが、翔南高校の二年生にはかなり難易度が高く、設問形式の簡易小論文シートを作ってもらえれば二学年全員に実施してみたい」とのことであった。この要請を受け、以下のような10のチェック項目を用意した。これらの設問の答を順につなぎ合わせれば、自然と小論文が完成する算段であった。アンケートを回収した結果、回答率97%(回答数:193/配布総数:199)となった。各々の問いとそれに対する回答は表2の通りである。

シートの回収結果を読み解くと、高2の夏休み前に83%の学生が何らかの希望職種を定め、それに伴って75%の学生が進学を考えていた。また進学先として栃木県内33%、東京26%、群馬17%、埼玉14%(一都三県で90%)となり、地域指向が強いことも分かった。この数値から、希望勤務地も一都三県に集中することが予想される。また希望職種としては医療・教育・公務員が7割を占め、安定志向が強いこともうかがえる。

一方で、栃木の長所・短所については様々な意見が出たものの、自ら地域での活動体験がないため、表層的な理解にとどまっている感が否めない。同様に、課題を抱えるコミュニティの中に入り込み、自らの職能を活かすイメージを持つ者が15%しかいない点は留意すべきであろう。医療・教育・公務員という職種は超高齢化社会と真正面から向き合う職能にも関わらず、自ら率先して担うべき役割のイメージが持てていない。この結果から推論すれば、将来、高校生が希望の職場に就職できても、理想と現実のギャップに驚き、離職の危険性もある、と考えられる。さらに地域との接点を持つべく新たに資格を持つとしても、就職後のため、出遅れる可能性も考えられる。

表2 第一回栃木小論文コンクール簡易小論文シートの統計結果

<p>問1 あなたが将来なりたい職業は何ですか?一つ挙げてください。(例:調理師、ペットのトリマー、看護師、教師、古着屋の店員など)</p>	<p>問2 その職業には資格が必要ですか?必要ならばどんな資格ですか?(例:必要なし、調理師免許、教員免許、大型二輪免許、一級建築士など)</p>	<p>問3 その職業に就くためには、大学や専門学校への進学が必要ですか?(例:高卒で就職、短大卒で就職、四大大卒で就職、大学院卒で就職)</p>
<p>問4 進学の場合、第一志望はどこですか?学部、コースまで書いてください。(例:白鷗大学法学部、TBC学院総合ビジネス学科、佐野短大など)</p>	<p>問5 第一志望の大学や専門学校に進学できたら、何を勉強したいですか?(例:栄養学、児童心理学、英語、など)</p>	<p>問6 大学や専門学校での勉強を終えた後、第一希望の就職企業はどこですか?(例:栃木市役所、スターバックスコーヒー、積水ハイム、JR 東日本など)</p>
<p>問8 栃木市中心部にある蔵の街の自慢できる点を複数挙げてください。(例:ほかの街に無い蔵が並んでいる、秋祭りが楽しい、など)</p>	<p>問9 蔵の街の抱える問題を複数挙げてください。(例:夜道が暗い、老人が多く火事が怖い、高校の居場所が無い、など)</p>	<p>問10 あなたが社会に出るまでに身につけたい技術や資格は、蔵の街の長所を伸ばし、短所を小さくすることはできそうですか?</p>
<p>問7 あなたが第一志望の企業に就職(もしくは独立)できたとして、あなたが身につけた技術は近所に住む人々にどのように役立ちますか?(例:保育さん→待機児童を預かってあげられる。車の整備士→雪の日にお年寄りのチェーンを巻いてあげられる。など)</p>		<p>回答数115、無回答79で、回答が多岐にわたる為、グラフ化出来なかったが、「教師→これからの社会を担う人材を育成できる、警察官→地域の安全を守る」などの回答があった。</p>

参考文献 (下線の文献は本項に関する発表論文等を示す)

- 1) 豊川斎赫: 伝統的建造物群保存地区の担い手育成に関する実践と分析 栃木市内高校生小論文コンクールと「とちぎ蔵部」の来歴、日本都市学会 2014
- 2) 総務省: 超・少子化高齢化時代に対応するICTを活用した街づくり, 厚生労働省: 未来コミュニティと厚生労働行政 医療福祉を生かした街づくり, 経済産業省: スマートコミュニティ/スマートハウスへの取り組み, 国土交通省: 持続可能な低炭素・循環型都市(スマートシティ)の構築に向けて
- 3) <http://www.hikarikumamoto.jp/about.html>